

(2)

ABSTRACT of JAPANESE UTILITY MODEL PUBLICATION

Japanese Publication No. Showa-47-607

Published Date: January 11/Showa 47 (AD1972)

Title of Utility Mode Connecting Portion for Pipes

Application Number	Showa-42-29326
Application Date	April 8 / Showa 42 (AD1967)
Applicant	Sekisui Industrial Co., Ltd
Inventor	Kazuo Seiuchi

(Abstract)

One 1 of Pipes (1, 2) to be connected to each other has an inserted portion and the other 2 thereof has a receiving portion for receiving the inserted portion of pipe 1. The receiving portion of the pipe 2 has a tapered portion 22 whose diameter becomes gradually large toward an entrance of the pipe 2.

Fig. 1

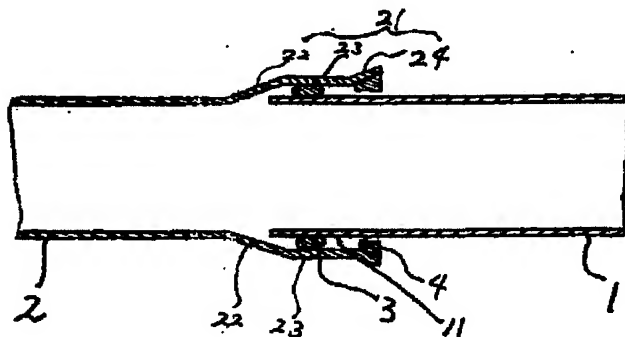
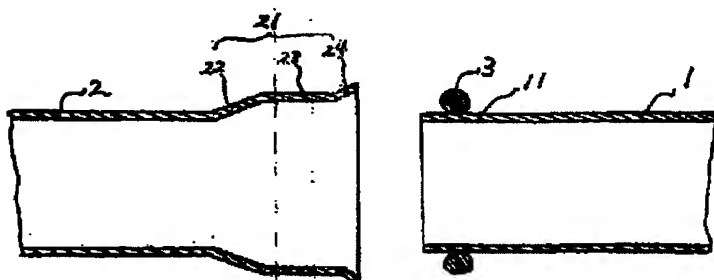


Fig. 2



2

⑤Int.Cl.
F 16 I⑥日本分類
65 A 311

日本国特許庁

⑩実用新案出願公告

昭47-607

⑩実用新案公報

④公告 昭和47年(1972)1月11日

(全2頁)

1

2

⑥管接続部

②実 願 昭42-29326
 ②出 願 昭42(1967)4月8日
 ⑦考 案 者 斉内和夫
 枚方市香里ヶ丘1の4
 同 木下義隆
 滋賀県神崎郡能登川町乙女が浜5
 59の1
 ⑪出 願 人 積水化学工業株式会社
 大阪市北区宗是町1

図面の簡単な説明

第1図は本考案管接続部の断面図、第2図は挿入部を受口部に挿入する直前の断面図である。

考案の詳細な説明

本考案は管の伸縮、敷設地盤の変動による振動撓屈に対して完全に安定して流体の漏洩を完全に阻止できる管接続部に関するもので、その要旨は一方の管の端部を挿入部となし、該挿入部の外周に、該挿入部の外径よりも小さい内径を有し、断面円形のパッキンを嵌着し、他方の管の管端部に受口部を設け、該受口部は外方に拡張した傾斜部と、該傾斜部に続く直管部と、該直管部に続く外方に拡張した拡張部を有し、直管部の内径は前記挿入部の嵌着された状態のパッキンの外径よりも小となされ、該受口部に、前記挿入部をパッキンが直管部内に位置するように挿入し、前記受口部の拡張部内側に係止環を嵌着し、該係止環の内径は前記受口部の直管部の内径より小となされた管接続部に存するものである。

図面を参照しながら更に説明すると、1は一端に挿入部11を有する管で、2は一端に受口部21を有する管である。

挿入部11には管1の外径よりも小さな内径を有し、断面円形のゴム製リング状パッキン3が引伸して嵌着されている。この際ゴム製リング3の肉厚は無理に引伸して嵌着されているので、嵌着される前の肉厚よりも薄くなっている。受口部

21は管壁を外方に拡張された傾斜部22と、該傾斜部22に続く直管部23と、該直管部23に続く外方に拡張された拡張部24とからなり、直管部23の内径は前記挿入部11に嵌着された状態のゴム製リング3の外径よりも小なる内径を有している。

挿入部11は受口部21に、パッキン3が直管部23の間に位置するように挿入し、受口部21の拡張部24の内側に、受口部21の直管部23の内径より小さい内径を有する係止環4を嵌着する。

受口部21内に挿入されたパッキン3は圧縮された状態にあつて、その肉厚は該係止環4の内面と挿入部外壁との間隔以上に復元増加し得るようになってい

る。本考案に於いては、パッキンは受口部の直管部の内面と挿入部の外面との間に挟まれて水密に保持されているだけで、何ら固着されていないので、軸方向に自由に伸縮出来、管の伸縮、敷設地盤の変動による振動、撓屈に対して完全に安定して流体の漏洩を阻止できる。

又、本考案に於いては、パッキンはその断面形状が円形であるから転子の働きをなし、受口部内に挿入部を無理なく挿入でき、両管の伸縮に対応して極めて容易に接続部が水密状態のまゝ撓動し得る。

更に、又、本考案に於いては、係止環が設けられているので、パッキンが挿入部と受口部との間隔から離脱するおそれがなく、又該係止環を受口部の拡張部内側に嵌着するものであるから、該係止環の外径に多少のばらつきがあつても係止環の嵌着の際に係止環を奥部に押し込むことによつて、係止環は受口部の拡張部内面に密着するので緊密に嵌着できる。

実用新案登録請求の範囲

一方の管の端部を挿入部となし、該挿入部の外周に該挿入部外径よりも小さな内径を有し、断面円形のパッキンを嵌着し、他方の管の端部に受口部を設け、該受口部は外方に拡張した傾斜部と

(2)

実公 昭47-607

3

4

該傾斜部に続く直管部と該直管部に続く外方に拡開した拡開部を有し、直管部の内径は前記挿入部に嵌着された状態のバツキングの外径よりも小となされ、該受口部に、前記挿入部をバツキングが直管部内に位置するように挿入し、前記受口部の拡開部内側に係止環を嵌着し、該係止環の内径は前記受口部の直管部の内径より小となされた管接

続部。

引用文献

5 実	公	昭30-18060
実	公	昭33-19965
実	公	昭39-35447

